

～ 阿久根市橋梁長寿命化修繕計画 ～



令和 6 年 3 月 策定
令和 7 年 12 月 一部改訂

阿久根市役所 都市建設課

《 目 次 》

	頁
1. 計画の基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1.1. 背景と目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1.2. 阿久根市管理の橋梁の現状と課題・・・・・・・・	2
2. 老朽化対策における基本方針・・・・・・・・・・・・・・	5
3. 長寿命化計画の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
4. 点検の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
5. 橋梁補修の対策優先度の設定・・・・・・・・・・・・・・	8
6. 橋梁の補修について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
6.1. 補修内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
6.2. 新技術の活用について・・・・・・・・・・・・・・	9
6.3. 新技術の活用による費用軽減・・・・・・・・・・	10
6.4. 費用の縮減に関する具体的な方針・・・・・・・・	10
7. 補修実施計画の策定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
8. 長寿命化計画による効果・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16

1. 計画の基本方針

1.1. 背景と目的

阿久根市は、鹿児島県北西部に位置し、高松川河口の阿久根港を中心に古来から海・陸交流の要衝として海運業・商業などの栄えた町であり、薩摩川内市から阿久根市の中心地を経由し出水市に向かう国道3号、北部には阿久根市と長島町を結ぶ国道389号があり、どちらも交通移動および物流の重要路線となっています。

阿久根市が管理する橋梁は226橋であり、『コンクリート橋(PC橋・RC橋・BOX)は89%の202橋』、『鋼橋は5%の11橋』、『石橋・混合橋は6%の13橋』となっています。

また、一般的に橋梁の設計寿命といわれる50年を現時点で経過している橋梁は、全体の48.6%の110橋であり(図1.1-1)、既に約半数の老朽化が懸念される状況です。

このような状況から阿久根市では、従来の「建設優先」の考え方ではなく、「建設から維持管理に至るライフサイクル」の視点に立った取り組みに移行することを基本方針とした「橋梁長寿命化修繕計画」を平成25年度に策定し、計画に沿って5年に一度の定期点検や橋梁調査・補修工事等の事業を実施してきました。

平成25年に策定した当初計画から約10年経過したことを受け、本計画ではこれまでの事業の実施状況とその間実施した定期点検結果等に基づき、「橋梁長寿命化修繕計画」の更新を行ったものです。

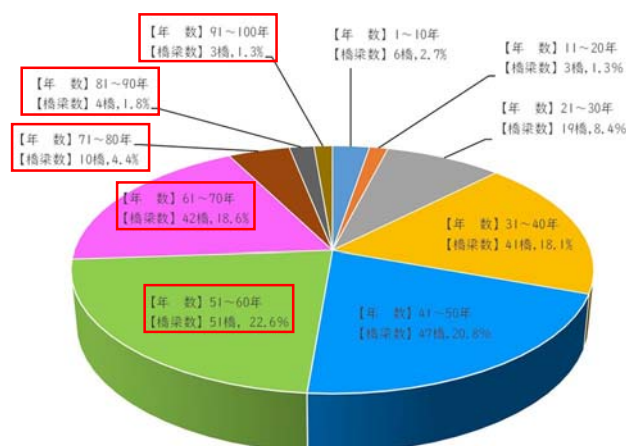


図1.1-1 管理橋梁の建設時からの経過年割合 (2023年時点)

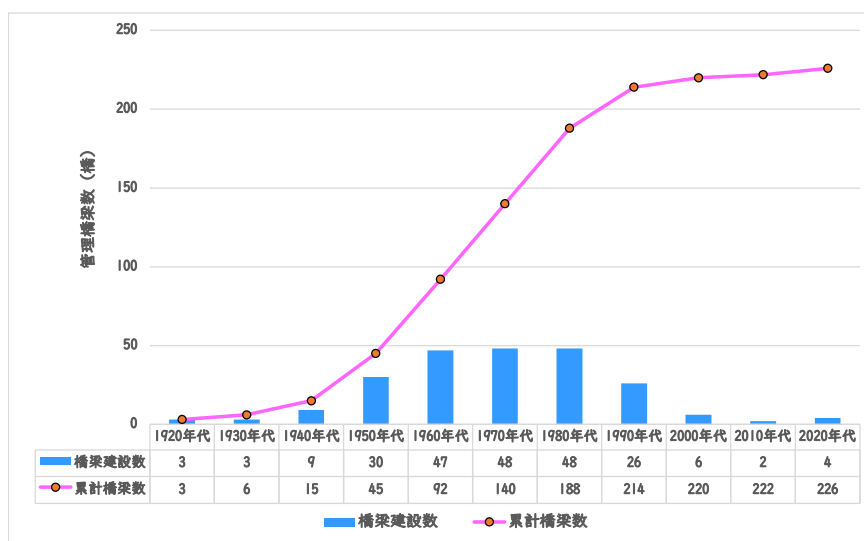


図1.1-2 管理橋梁の架設年度別数 (2023年時点)

1.2. 阿久根市管理の橋梁の現状と課題

(1) 橋梁数

阿久根市が管理する橋梁は 226 橋であり、橋種別で分類すると、『PC 橋は 29%の 66 橋』、『RC 橋は 39%の 89 橋』、『鋼橋は 5%の 11 橋』、『BOX は 21%の 47 橋』、『石橋は 2%の 4 橋』、『混合橋は 4%の 9 橋』となっています。主な特徴として、コンクリート橋が多いことが挙げられます。

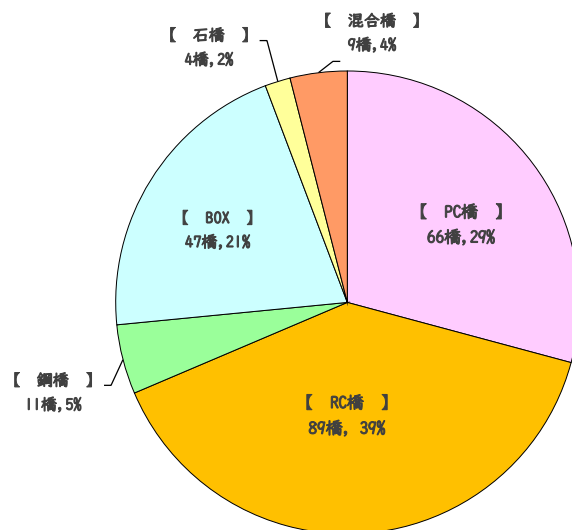


図 1.2-1 管理橋梁の橋種別割合

(2) 橋梁の経過年数

図 1.2-2 から、阿久根市が管理する橋梁 226 橋のうち、令和 6 年 3 月現在において、50 年を経過している橋梁は 110 橋ですが、20 年後の 2043 年には全体の 90.7%にあたる 205 橋（補修実施橋梁を含む）が建設後 50 年を越える事となります。

阿久根市が管理する橋梁は今後急速に高齢化し、大規模な修繕や架け替えが同時期に発生することが予想され、多大な財政負担となることが懸念されます。

このようなことから、橋梁の長寿命化および橋梁の修繕や架け替えに係わる費用の縮減を図ることが大きな課題となっています。

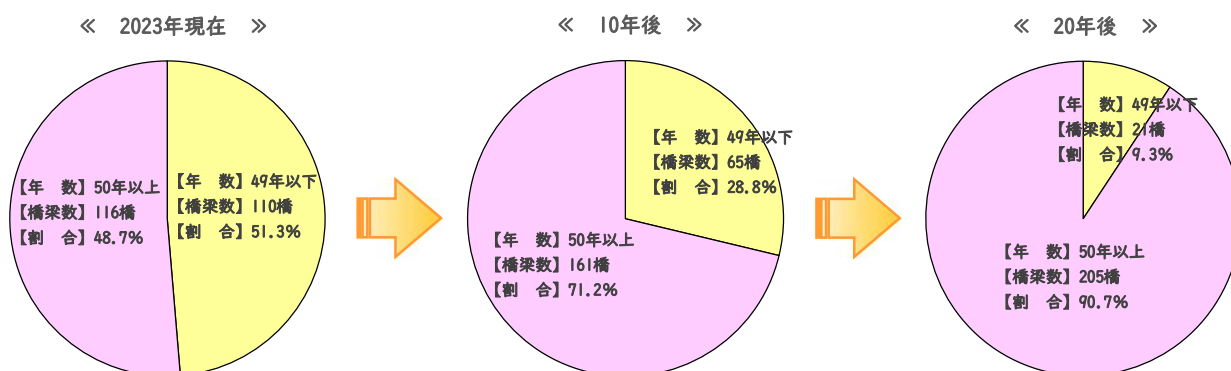


図 1.2-2 建設後 50 年以上の推移

(3) 補修実施橋梁と実施年数

対象橋梁 226 橋のうち、令和 6 年 3 月現在で対策が必要な橋梁は 191 橋、健全（対策不要）な橋梁は 35 橋となっています。

対策が必要な橋梁 191 橋のうち、補修に着手した橋梁（令和 5 年度までに工事が完了した橋梁は 31 橋）は 46 橋です。

今後さらに設計寿命（50 年）を超える橋梁が増加するため、計画的に補修設計等を行う必要があります。

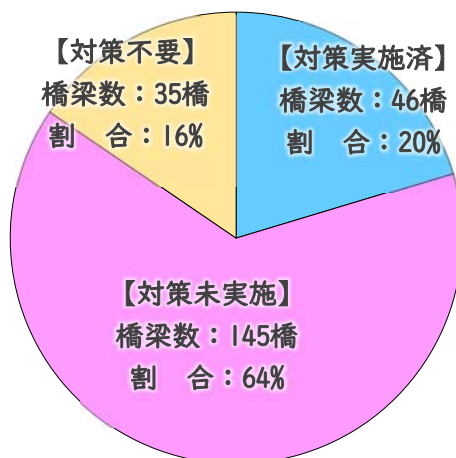


図 1.2-3 補修実施橋梁の割合

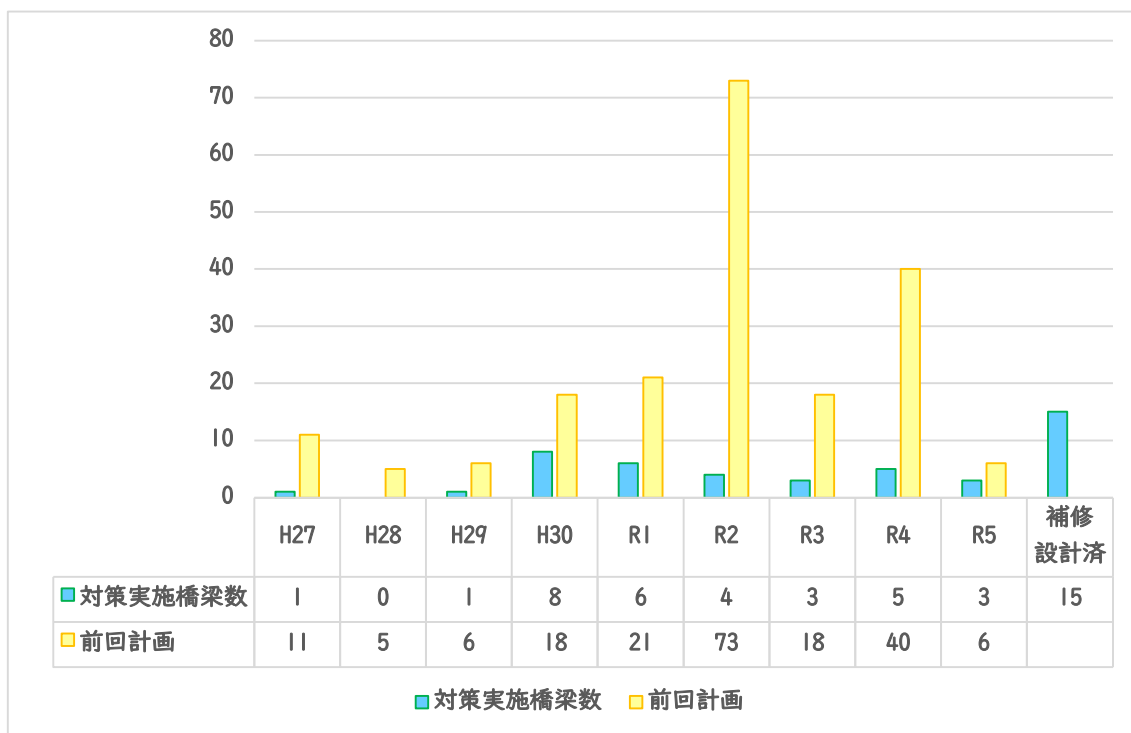


図 1.2-4 補修実施橋梁の年度別数

(4) 橋梁の状況

令和6年3月現在の橋梁定期点検の結果は、以下の通りです。

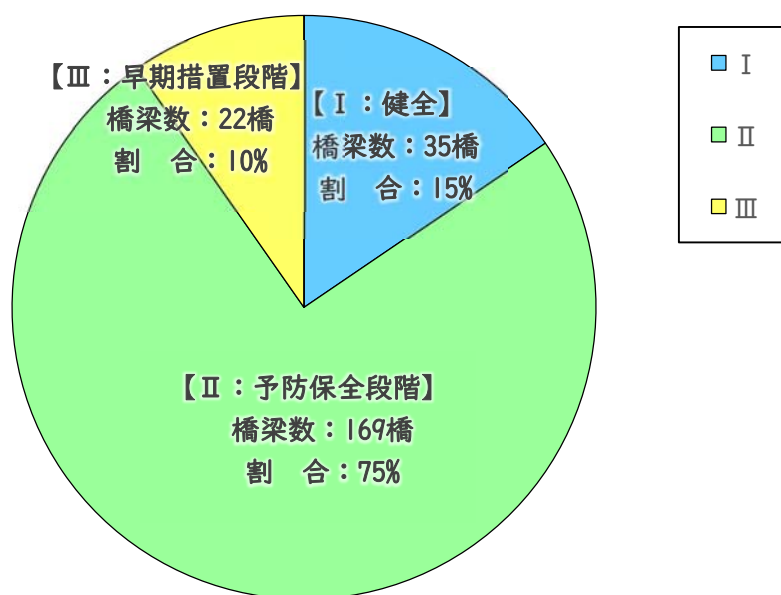


図 1.2-5 点検結果（全 226 橋）

表 1.2-1 健全性の診断区分

区分		定義
I	健全	道路橋の機能に支障が生じていない状態。
II	予防保全段階	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	早期措置段階	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV	緊急措置段階	道路橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

※出典：「橋梁定期点検要領(国土交通省)」P.27 より

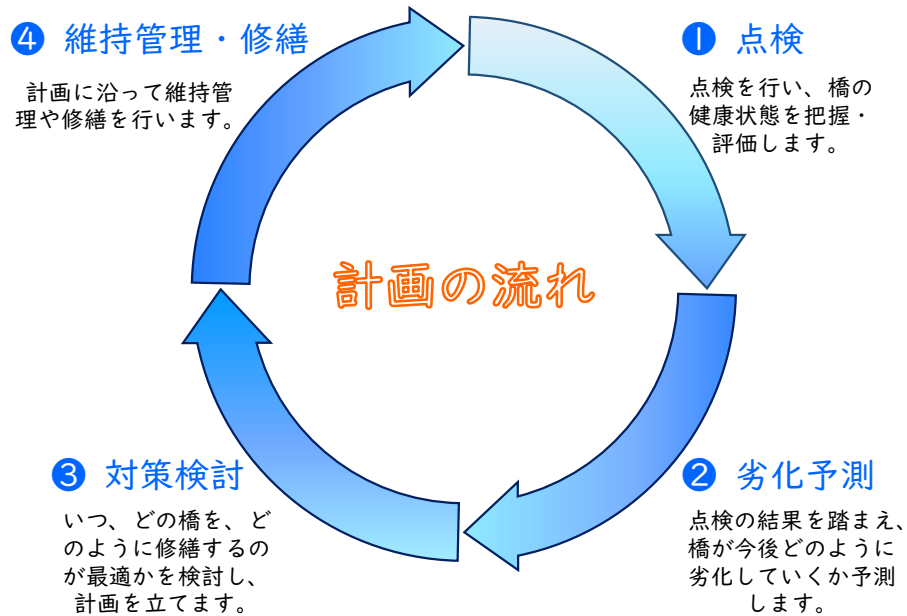
2. 老朽化対策における基本方針

橋梁の老朽化対策における基本方針は以下の通りです。

- ① 健全性の診断区分【Ⅳ】および【Ⅲ】の橋梁は、優先的に修繕等の対応を実施します。（阿久根市では、令和５年度時点で診断区分「Ⅳ」の橋梁はありません）
- ② 上記の対策を実施するにあたり、路線の重要性、環境条件、利用状況等を考慮して対策の優先順位を決定します。
- ③ 道路利用者及び第三者に対する安全性に影響する損傷が確認された場合は、優先的に対策を実施します。
- ④ 老朽化等により損傷が著しい橋梁は、安全性確保のための緊急措置を検討・実施するとともに、架け替え（更新）についても計画的に実施します。

3. 長寿命化計画の流れ

前回橋梁長寿命化計画（平成 25 年度）と同様、「建設から維持管理に至る橋のライフサイクル」を考え策定した、『橋の長寿命化修繕計画』に従って、橋の維持管理を行います。



約 5 年ごとに点検、約 10 年ごとに計画の見直しを実施し、架け替えより修繕を基本として、その時に応じた適切な対策を検討します。

4. 点検の方法

橋梁の点検は、以下の3つに分類されます。

① 日常点検（パトロール）

- ◇ 損傷や異常を早い時期に発見するために、高い頻度で行われる点検。
- ◇ 日常的なパトロールも含まれる。
- ◇ 主な点検方法として、道路パトロール車の中から目視で行われることが多い。

② 定期点検

- ◇ 5年に1度の頻度で行われる。
- ◇ 損傷の程度から健全性の診断を行い、計画的に実施される点検。
- ◇ 点検機器や橋梁点検車を用いて行われる。

③ 異常時点検

- ◇ 地震・台風・集中豪雨等の自然災害や大きな事故が発生した場合に、臨時で行われる点検。



点検時に行う排水柵の土砂詰まり撤去や舗装の清掃は、支承や伸縮装置への影響を軽減するなど、長寿命化につながります。

5. 橋梁補修の対策優先度の設定

本計画では、補修が必要な橋梁に対して立地環境や路線の状況、劣化・損傷の程度を考慮して、優先度を決めて対策を計画しました。本計画における優先度の考え方は以下の通りです。

① 健全性評価に基づく優先度

R4 年度までに実施した橋梁定期点検の結果を踏まえて、橋梁全体の健全度で厳しい評価となった橋梁を優先します。

② 立地条件等による優先度

①の選定方法で判定が同じ橋梁においては、路線の重要性や環境条件等の『優先度指数』を考慮し、優先順位を選定します。

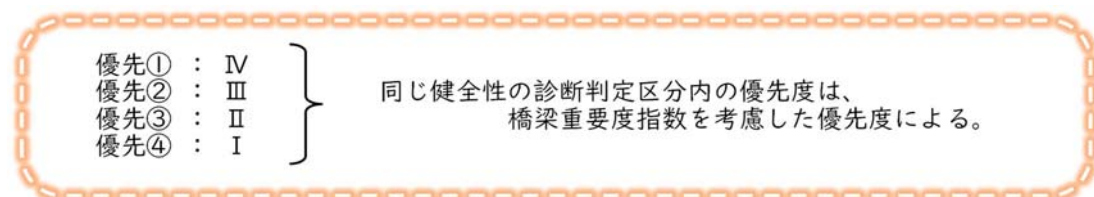
③ ①と②を考慮した総合的な優先度

上記の①、②を考慮した上で、橋梁の優先度を決定します。

表 5-1 立地条件等による優先度の項目

諸元項目	細 別	概 要
交通量	多い・やや多い・少ない	橋梁の使用度として交通量は重要であるため。
交差状況	鉄道・道路・河川	跨線橋および跨道橋が損傷した場合は、第3者被害の恐れがあるため。
迂回路の有無	あり・なし	迂回路の有無は、ライフラインとしての道路網として重要であるため。
経過年数	70年以上・50年-70年・20年-50年・20年未満	経過年数が高い橋梁は、低い橋梁に比べ劣化速度が速いため。
橋面積	200㎡以上・80㎡-200㎡・20㎡-80㎡・20㎡未満	橋面積が大きいほど補修の金額がかかるため。
環境条件	一般環境・塩害環境	塩害環境（海岸線に近い環境）に位置する橋梁は、一般環境に位置する橋梁に比べ劣化速度が速いため。

表 5-2 健全性の診断区分と損傷程度に基づく優先度の考え方



6. 橋梁の補修について

6.1. 補修内容

橋梁の補修項目や内容は、工事前に橋梁の状況と補修対策を決定するための、調査・補修設計を実施し決定します。

橋梁の損傷状況やその原因に応じて適切な工法で修繕工事を実施します。

6.2. 新技術の活用について

橋梁の点検方法の決定や橋梁の修繕工法決定においては、「新技術の活用検討」を原則実施し、ライフサイクルコスト等の費用縮減を図ります。

新技術は、新技術情報共有システム（NETIS）等を活用し、その状況に応じて最適な新技術の検討を行います。

表 6.2-1 新技術情報提供システム（NETIS）-点検技術（一部抜粋）-

技術番号	技術名	技術概要
BR010002-V0020	超望遠レンズによる 高層構造物の外観検査技術	画像から橋梁の損傷（ひびわれ・遊離石灰など）を抽出し、点検調書を作成する技術
BR010003-V0020	構造物点検調査ヘリシステム （SCIMUS：スキームス）	ドローンに搭載したデジタルカメラを用いて橋梁を撮影し、変状を把握する技術
BR020003-V0020	デジタル打音検査とデジタル 目視点検の統合システム	AEセンサを用いた打音計測装置を用い、デジタル化された情報から、橋梁の損傷（コンクリートのうき・剥離・内部欠陥・ボルトのゆるみ等）を把握する技術
BR020005-V0120	ポール打検機	ポール（最長8m）の先端に取り付けたセンサーヘッドを橋梁に押し当て、聴音によりコンクリートのうきの有無を判別する技術

表 6.2-2 新技術情報提供システム（NETIS）-補修技術（一部抜粋）-

技術番号	技術名	技術概要
KT-220245-A	ナノシリカ系表面含浸材 コンクリートリバイブ CPT-2000	従来実施していた含浸材の塗布前に行う散水作業が不要となるため、施工性が向上して工期の短縮が図れる技術
KT-230056-A	橋梁伸縮装置の止水工法 （KFシールテクトYKB-J工法）	伸縮装置の劣化した伸縮ゴム部分のみを除去し、塗料による止水塗膜を形成し補修する技術
QS-180044-A	高耐久性断面修復工法 「タフショットクリート工法」	ノンポリマーセメントモルタル（独自の材料を配合）を使用することで、優れた強度・耐久性をあげる技術
QS-180020-A	ジョイント「繫」	橋梁地覆隙間部からの雨水などの侵入防止を目的とした隙間止水材であり、地覆部との密着性が高い技術

6.3. 新技術の活用による費用縮減

補修技術において、以下の新技術を活用することで、以下のような結果となります。

阿久根市が管理する橋梁 226 橋のうち、補修対象 14 橋に対して令和 10 年度末（今後 5 年間）までに以下の新技術・新工法を活用することで、約 3,734（千円）程度の費用縮減の効果を目指します。

≪ ナノシリカ系表面含浸材 コンクリートリバイブ CPT-2000 ≫

単価（千円） 【従来技術】	単価（千円） 【新技術】	従来技術（千円）	新技術（千円）
4.0	3.9	4,328	4,193

約 135（千円）

の縮減効果あり

≪ 高耐久性断面修復工法「タフショットクリート工法」 ≫

単価（千円） 【従来技術】	単価（千円） 【新技術】	従来技術（千円）	新技術（千円）
120.7	104.0	26,002	22,403

約 3,599（千円）

の縮減効果あり

6.4. 費用の縮減に関する具体的な方針

橋梁の管理には、点検に係る維持費や修繕に伴う維持工事費等の費用が必要になります。費用の縮減方法において、前項で述べた新技術活用による方法のほかに、老朽化した橋梁を廃止し集約化することにより、維持管理に係る経費の縮減や効率化が期待されます。

阿久根市では、現時点において、近傍に迂回路があり利用頻度が極めて低く、修繕工事を必要とする施設がないため、集約・撤去による費用縮減は困難であるが、ライフサイクルコスト縮減のため、社会経済情勢及び施設の利用状況並びに地元の意見を踏まえ、令和 10 年度までに 1 橋の集約・撤去について検討し、約 30 万円程度の費用縮減の効果を目指します。

7. 補修実施計画の策定

阿久根市が管理する 226 橋において、前述の考えに基づき更新した計画一覧表を以下に記載します。

【 凡 例 】
：設計
：工事
：点検

整理番号	橋梁名	路線名	架設年度	供用年数	対策時期										補修工事費用 (千円)	対策内容
					R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15			
225	大曲橋	波留高松線	1970	55										110,395	主部材:表面含浸工&ひびわれ注入&断面修復&足場工, 支承:取替工	
185	浜田橋	波留大曲線	1973	52										121,200	主部材:表面含浸工&ひびわれ注入&断面修復&足場工, 支承:取替工	
216	港橋	琴平港橋線	1978	47										456,553	床版:橋面防水・含浸&ひびわれ注入&断面修復	
124	佐潟橋	佐潟臨港道路線	1973	52										32,710	床版:橋面防水・含浸&ひびわれ注入&断面修復	
117	尾原第三橋	尾原線	1969	56										12,985	床版:床版防水工&ひびわれ注入&断面修復&足場工	
49	八郷橋	八郷本線	1989	36										8,028	主部材:表面含浸工&ひびわれ注入&断面修復&足場工	
54	黒之上橋	黒之上東支線	1956	69										2,565	主部材:表面含浸工&ひびわれ注入&断面修復&足場工	
198	前川原橋	山下甚野線	1970	55										47,594	主部材:1種ｸﾚﾝ&当て板補強, 支承:取替工	
138	出羽橋	出羽線	1961	64										32,710	床版:床版防水工&ひびわれ注入&断面修復	
142	小麦橋	大角線	1957	68										14,641	主部材:表面含浸工&ひびわれ注入&断面修復&足場工	
75	牟田橋	牟田線	1945	80										24,827	主部材:表面含浸工&ひびわれ注入&断面修復&足場工	
128	栢宇都橋	栢宇都線	1957	68										2,185	主部材:表面含浸工&ひびわれ注入&断面修復&足場工	
211	岩下橋	松岡支線	1974	51										86,349	横桁:表面含浸工&ひびわれ注入&断面修復&足場工	
206	中屋敷橋	中屋敷線	1929	96										15,037	主部材:表面含浸工&ひびわれ注入&断面修復&足場工	
119	尾原第五橋	尾原線	1977	48										5,915	主部材:1種ｸﾚﾝ&当て板補強	
127	下越橋	飛松下越平線	1956	69										5,821	床版:床版防水工&ひびわれ注入&断面修復	
100	金石橋	金石線	1941	84										5,544	主部材:表面含浸工&ひびわれ注入&断面修復&足場工	
114	洗出橋	洗出し線	1969	56										1,683	主部材:表面含浸工&ひびわれ注入&断面修復&足場工	
88	第2内田橋	牧内内田線	1963	62										8,807	床版:床版防水工&ひびわれ注入&断面修復	
207	神之田橋	中屋敷線	1963	62										20,701	主部材:表面含浸工&ひびわれ注入&断面修復&足場工	
112	水俣木橋	藤ヶ段線	1964	61										30,000	下部工:洗堀部補修工(コンクリート巻立)	
203	永原橋	永原線	1971	54										50,000	下部工:洗堀部補修工(コンクリート巻立)	
209	第一大川橋	大川線	1963	62										87,671	主部材:表面含浸工&ひびわれ注入&断面修復&足場工	
148	鈴木段橋	鈴木段竹之迫線	1926	99										1,409	主部材:表面含浸工&ひびわれ注入&断面修復&足場工	
189	五十地橋	五十地線	1981	44												
3	黒之浜橋	黒之浜港線	1968	57												
15	落下橋	中央線	1978	47												
37	弓木野橋	横ヶ倉線	1977	48												
43	小鹿倉橋	大川本線	1957	68												
63	陳之尾筒田橋	陳之尾筒田線	1983	42												
67	第1折口鍋石橋	折口鍋石線	1960	65												
83	川内橋	大下上桑線	1991	34												
86	曙橋	折口団地本線	1980	45												
90	下桑橋	桑原城中線	1963	62												
92	桑原城橋	牧内桑原城支線	1929	96												
106	南波留前橋	潟波留線	1982	43												
107	潟波留橋	潟波留線	1982	43												
108	五色浜橋	倉津遠見ヶ岡線	1979	46												
122	木佐木野橋	木佐木野中線	1979	46												
125	大川島橋	大川島線	1969	56												
131	第1馬見塚橋	北平線	1961	64												
136	中津川橋	大川本線	1958	67												
139	御法橋	尻無本支線	1973	52												
144	徳口橋	徳口線	1960	65												
146	えりがわうち橋	南畑線	1971	54												
150	駅裏橋	上野丸尾	1947	78												
151	丸尾橋	上野丸尾	1984	41												

表 7-1 計画一覧表 (2/5)

【 凡 例 】
：設計
：工事
：点検

整理番号	橋梁名	路線名	架設年度	供用年数	対策時期									補修工事費用 (千円)	対策内容
					R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15		
165	楠田橋	阿久根出水線	1988	37											
174	山仁田橋	山仁田線	1996	29											
175	唐田橋	唐田線	1971	54											
179	上原跨道橋	上原桐野線	1983	42											
181	楠本橋	中央線	1976	49											
186	大田橋	菟野大田線	1970	55											
190	第一新田橋	古里上原線	1992	33											
191	田島橋	折口本線	1967	58											
192	石ノ丸橋	陳之尾線	1988	37											
193	平田橋	多田中央線	1977	48											
195	山波橋	山波線	1975	50											
197	園田橋	阿久根出水線	1988	37											
200	堂園橋	栗原堂園線	1981	44											
212	尻無橋	尻無岩下線	1974	51											
214	新塘橋	大丸遠見ヶ岡線	1988	37											
217	塩鶴橋	3-5-7線	1994	31											
221	山下橋	阿久根出水線	1993	32											
224	陳之尾平跨道橋	陳之尾平線	2008	17											
16	新吉之迫橋	中央線	1980	45											
170	新中津川橋	大川本線	2000	25											
202	松川内橋	松川内線	1962	63											
1	大漣橋	黒之上大漣線	1994	31											
7	大洲川橋	大洲川線	1982	43											
14	有田橋	中央線	1965	60											
27	第二鍛冶屋段橋	尻無本線	1975	50											
28	第2尻無橋	尻無本線	1955	70											
31	筒田橋	筒田桐野線	1991	34											
32	第2鍋石橋	鍋石線	1986	39											
33	陳之尾坂橋	内田陳之尾坂線	1982	43											
36	野中橋	山下弓木野線	1955	70											
38	第2横ヶ倉橋	横ヶ倉線	1969	56											
42	宇都口橋	大川本線	1997	28											
44	川畑浦橋	大川本線	1936	89											
46	五本松橋	五本松支線	1987	38											
47	八郷中橋	八郷笠山線	1956	69											
48	八郷上橋	八郷笠山線	1956	69											
50	第2八郷橋	八郷本線	1989	36											
55	第1黒之浜橋	黒之浜深田線	1954	71											
57	米山橋	瀬之浦笠山線	1961	64											
59	黒十橋	丸岡支線	1965	60											
62	瀬之浦上原橋	上原の場線	1978	47											
64	芋洗橋	糖蒔線	1993	32											
66	鍋石橋	鍋石中線	1966	59											
70	第4折口鍋石橋	折口鍋石線	1960	65											
74	田島橋	田島線	1993	32											
76	第2大迫橋	牟田大迫線	1956	69											

表 7-1 計画一覧表 (3/5)

【 凡 例 】
：設計
：工事
：点検

整理番号	橋梁名	路線名	架設年度	供用年数	対策時期									補修工事費用 (千円)	対策内容
					R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15		
77	根比橋	根比線	1954	71											
78	大山橋	大山神社線	1958	67											
82	第2中面橋	大下小川内線	1945	80											
84	大下上桑橋	大下上桑線	1961	64											
85	つて川内橋	内田東つて川内線	1986	39											
87	内田陳之尾坂橋	内田陳之尾坂線	1954	71											
91	第1大迫橋	大迫日暮線	1962	63											
98	波留用水路橋	波留線	1957	68											
102	第2小松田橋	遠矢太郎原線	1949	76											
103	太郎原橋	遠矢太郎原線	1971	54											
105	鷺ヶ峰橋	鷺ヶ峰線	1985	40											
110	鎌津倉橋	治次郎線	1964	61											
118	尾原第四橋	尾原線	1970	55											
126	第3下越橋	飛松下越平線	1993	32											
132	北平橋	北平線	1968	57											
134	牟礼橋	牟礼線	1955	70											
137	榎木丸橋	榎木丸線	1959	66											
141	黒木場橋	黒木場線	1948	77											
143	第1小麦橋	大角線	1973	52											
155	鶴見4号橋	若葉公園西線	1981	44											
156	鶴見5号橋	若葉公園東線	1980	45											
160	第2唐田橋	園田内田線	1992	33											
166	中尾橋	阿久根出水線	1988	37											
172	飛松桤線1号橋	飛松桤線	1993	32											
194	石之丸橋	多田中央線	1980	45											
196	文殊院橋	阿久根出水線	1988	37											
199	伽藍橋	羽田菰野線	1967	58											
204	尾原第二橋	尾原線	1977	48											
205	一箇橋	一箇線	1977	48											
208	長迫橋	大川西目線	1980	45											
210	竹之迫橋	尻無松岡線	1972	53											
223	蛭橋	中央線	2006	19											
12	赤剥橋	中央線	1979	46											
35	徳ヶ山橋	山下弓木野線	1982	43											
52	滝之鼻橋	瀬崎山線	1970	55											
58	京田橋	瀬之浦京田線	1973	52											
104	青竜橋	青竜線	1978	47											
145	南畑橋	南畑線	1971	54											
153	鶴見2号橋	鶴見公園西線	1981	44											
158	日暮橋	大迫下桑線	1996	29											
168	底広橋	山下尾崎線	1988	37											
177	金山橋	田代中線	1992	33											
8	鳴迫橋	下村瀬之浦線	1979	46											
9	瀬之浦橋	下村瀬之浦線	1979	46											
10	的場橋	下村瀬之浦線	1996	29											
11	早馬橋	上原桐野線	1947	78											

表 7-1 計画一覧表 (4/5)

【 凡 例 】 : 設計 : 工事 : 点検

整理番号	橋梁名	路線名	架設年度	供用年数	対策時期									補修工事費用 (千円)	対策内容
					R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15		
17	新桑原城橋	牧内桑原城線	1969	56											
23	柿内橋	尻無本線	1971	54											
25	岩下橋	尻無本線	1976	49											
26	第一鍛冶屋段橋	尻無本線	1976	49											
34	池ノ上橋	波留大曲線	1957	68											
40	黒仁田橋	牛之浜本之牟礼線	1964	61											
41	北崎橋	大川本線	1958	67											
53	第 2 滝之鼻橋	瀬崎山線	1970	55											
56	古里村中橋	古里宇都山線	1988	37											
61	竜ヶ迫橋	早馬竜ヶ迫線	1985	40											
68	第 2 折口鍋石橋	折口鍋石線	1960	65											
69	第 3 折口鍋石橋	折口鍋石線	1960	65											
80	前田橋	内田大下線	1981	44											
81	第 1 中面橋	大下小川内線	1945	80											
93	長谷橋	赤剥長谷線	1954	71											
94	長谷村中橋	県道長谷線	1965	60											
95	上鶴橋	上鶴線	1969	56											
96	牧内橋	羽田牧内線	1967	58											
97	轟橋	唐田大尾線	1988	37											
101	第 1 小松田橋	山下中線	1949	76											
109	治次郎橋	治次郎線	1961	64											
113	藤ヶ段橋	藤ヶ段線	1954	71											
115	第 2 永原橋	永原線	1963	62											
116	尾原橋	尾原線	1970	55											
120	東米次橋	東米次線	1969	56											
123	田之神橋	木佐木野西線	1989	36											
129	稲牟礼橋	稲牟礼線	1988	37											
133	山之田橋	山仁田線	1973	52											
135	吉之迫橋	吉之迫線	1982	43											
154	鶴見 3 号橋	鶴見中央線	1980	45											
161	上桑橋	赤剥長谷線	1993	32											
162	黒牟田橋	赤剥長谷線	1994	31											
163	高石橋	阿久根出水線	1985	40											
164	北山橋	阿久根出水線	1988	37											
169	鷹ノ首橋	洗出し線	1969	56											
171	大田線 1 号橋	大田線	1992	33											
173	飛松护線 2 号橋	飛松护線	1993	32											
176	田代中橋	田代中線	1992	33											
178	榎ノ谷橋	山下尾崎線	1988	37											
182	鍋石橋	鍋石線	1953	72											
183	大丸橋	陳之尾大下線	1983	42											
218	八幡橋	山下尾崎線	1987	38											
219	陣之尾橋	陳之尾丸内線	1994	31											
220	西目大橋	阿久根出水線	1991	34											
13	木船橋	中央線	1972	53											
30	小漣谷橋	小漣松ヶ根線	2004	21											

表 7-1 計画一覧表 (5/5)

【 凡 例 】 ■：設計 ■：工事 ■：点検

整理番号	橋梁名	路線名	架設年度	供用年数	対策時期									補修工事費用 (千円)	対策内容
					R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15		
159	第2下桑橋	大迫下桑線	1997	28											
226	栴橋	洗出し線	2001	24											
2	黒中橋	大漣黒之上線	1966	59											
4	江月橋	鳩之浦深田線	2018	7											
5	新地橋	鳩之浦深田線	2019	6											
6	鳴子橋	鳩之浦深田線	1985	40											
20	第二飛松橋	飛松落線	1950	75											
21	飛松橋	飛松落線	1934	91											
22	白岩橋	飛松落線	1950	75											
24	寺下橋	尻無本線	1969	56											
39	横ヶ倉橋	横ヶ倉線	1953	72											
45	今越橋	大川今越線	1967	58											
51	小漣橋	小漣中線	1953	72											
60	平床橋	瀬之浦平床線	1958	67											
65	丁里迫橋	丁里迫線	1965	60											
71	第5折口鍋石橋	折口鍋石線	1960	65											
72	新川橋	折口本線	1935	90											
73	新川橋(歩道橋)	折口本線	1992	33											
89	長蓮橋	園田内田線	1986	39											
99	穴迫橋	宮原穴迫線	1957	68											
111	茶円ヶ段橋	茶円ヶ段支線	1983	42											
121	第2米次橋	南米次線	1969	56											
130	松峯橋	馬見塚戸線	1990	35											
147	ぐんの木橋	グンノ木線	1971	54											
149	住吉橋	新町小松原通り線	1955	70											
152	本町水路2号橋	本町河畔線	2022	3											
157	本町水路橋	本町3号線	2022	3											
167	石山橋	山下尾崎線	1988	37											
180	内田橋	中央線	1979	46											
184	下内田橋	内田陳之尾坂線	1966	59											
187	第二大川橋	尻無大川線	1963	62											
188	月見橋	黒之浜深田線	1979	46											
201	前川原橋	下田代線	1959	66											
213	尻無橋	尻無浜大通り線	1963	62											
215	高松跨線橋	栄町2号線	1966	59											
222	二千年橋	中央線	2001	24											
29	鶴見第一橋	3-5-7線	1978	47											
79	丸内橋	丸内野田線	1977	48											
140	屋敷村橋	屋敷村線	1972	53											
18	佐潟橋3号	高之口佐潟線	2022	3											
19	佐潟橋2号	高之口佐潟線	2022	3											
補修設計			合計 (橋)		0	0	0	0	2	2	0	0	0	※令和5年度以前に補修設計済橋梁	
			設計費 (千円)		0	0	0	0	10,000	10,000	0	0	0		
補修工事			合計 (橋)		2	4	2	7	6	2	2	0	0		
			工事費 (千円)		154,808	161,951	185,967	227,358	48,471	1,654	89,080	0	0		
橋梁点検			合計 (橋)		22	36	44	124	0	22	36	44	124		
			点検費 (千円)		5,170	8,460	10,340	29,140	0	5,170	8,460	10,340	29,140		
合計 (千円)					159,978	170,411	196,307	256,498	58,471	16,824	97,540	10,340	29,140		

8. 長寿命化修繕計画による事業費削減効果の算定

架設後 50 年で更新（橋梁の架け替え）を行う『事後的修繕』と、損傷が大きくなる前に補修等を実施する『修繕計画』において、50 年間の総事業費用を比較した結果、『事後的修繕』が 146.9 億円なのに対し、『修繕計画』は 33.2 億円となり、計画策定による事業費用の低減効果（77.4%）を確認できました。

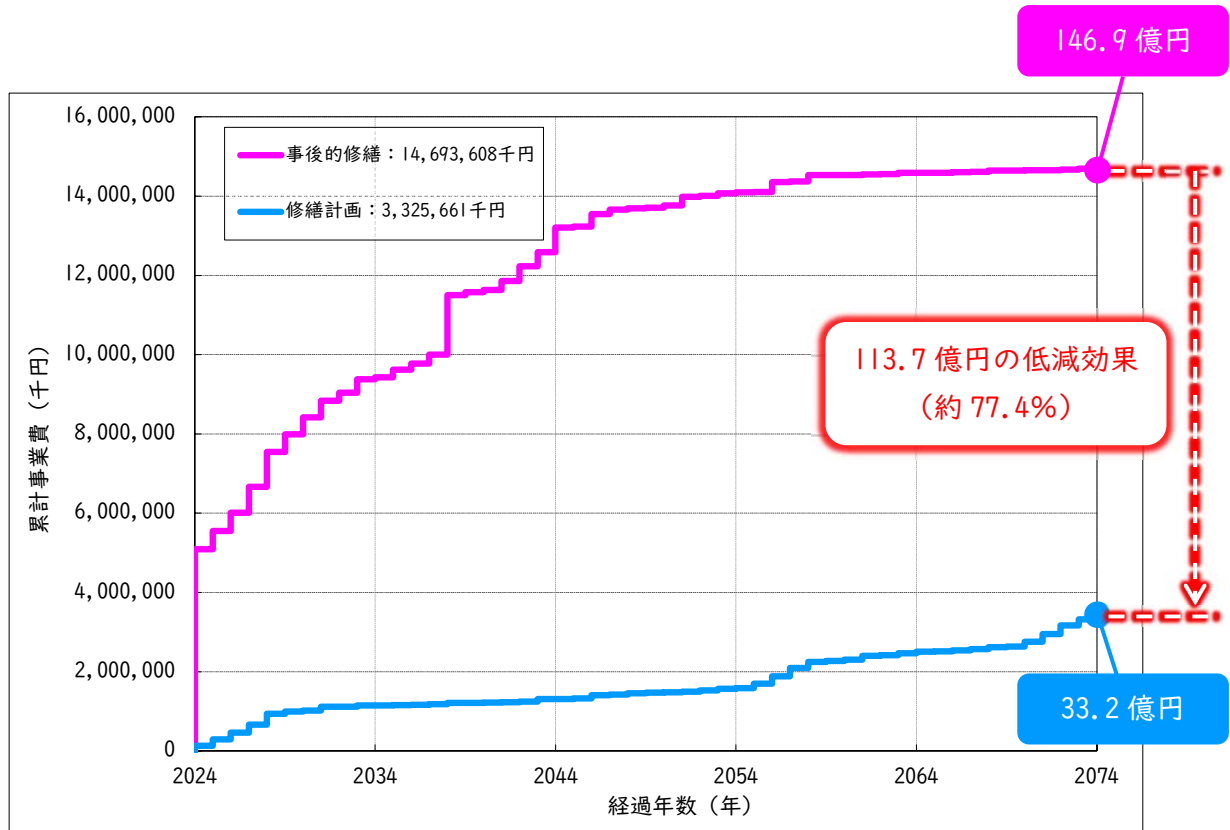


図 8-1 長寿命化修繕計画の事業費低減効果